

まちづくりネットワーク緑

通称「まちネット緑」2024年度実績

2025(令和7)年3月31日 第15号

横浜市緑区中山4-36-20

みどりーむ内 樋口誠

Tel 080-3914-1682

ネットワーク力を活かして、市民によるまちづくり活動に参加しています。

- ① 防災・減災の学習活動や「防災塾・だるま」「わいわい広っぱ」等との連携を行っています。
- ② 防災・減災講座をみどりーむに協力して開催しています。
- ③ メンバーはみどりーむで運営委員、自主事業部会、まつり実行委員などに参加しています。

■まちネット会員の勉強会 2024

開催 8月10日(土) 19名参加(まちネット緑6名)
「パンデミックに備える COVID-19 から何を学び、どう備えるか。改めて、感染症とは…」

講師 岡部 信彦氏

川崎市健康安全研究所参与

・令和5年5月8日から
感染症の2類が5類に
変更され、一般医療
機関での治療が可能
になった。



・感染症は人を中心うつる病気、3~4年かけて広がっていく。感染した場合は強い免疫力ができるが、危ないので注意が必要。うつると危険な状態になる人もいる、「強がり過ぎず、恐れ過ぎず、できること(うがい、手洗い等)を確実に」!!

・Q&A

Q:ピークが来た後、急に減るのはなぜか。

A:免疫を有する者が増えると患者発生は減る。報道で慎重になる、環境変化も影響を受ける。

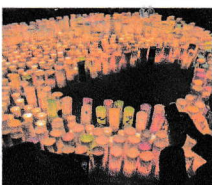
Q:ワクチン接種後の後遺症が発生している。

A:増加はしていない。個別ごとの症状で、まずはかかりつけ医から、次に専門医の診断を。

■阪神神戸大震災30周年 1月16日~18日

・当会で5名参加 (防災塾・だるま行事)

・1・17の集い、神戸市役所、松山順三氏との交流、人と防災未来センター、ほか



■課題検討

◆防災と福祉の融合

・個別避難計画の作成率が非常に低い。考えられる理由は、本人からの援助拒否、人間関係が希薄で支援者が見つからない。面倒くさく、個人情報等を盾に情報を出さない、地域からの支援拒否。要は信頼関係づくりが大切とわかった。

・対応は、対象者本人の意向に寄り添いながら聞き出し、記録しておくことから始め、受援力(助けを求め、受ける力)を高め信頼関係を作ることだ。

・自発的に自治会に申し出る人もいる。

◆薬剤の処方による負の連鎖・処方カスケードについて(意見交換)

・病院で処方による薬で副作用が出、その症状に対応するため別の病院に行き、もらった薬で別の副作用…、これを繰り返すことがある。

・避難所避難では生活の長期化も考え、多めに薬を貰っておいた方がよい。

◆能登半島災害報告(防災塾・だるまの講演等に参加)

・倒壊の主体は旧耐震構造だが1981年以降の新耐震工法でも発生している

大規模半壊から数か月後に倒壊した例もある。

・火災は地震の揺れにより電線が引っ張られショートする。

・飲料水より生活水の需要が多い。

まちづくりネットワーク緑 会員募集

樋口誠 080-3914-1682

Newmode4649@mail.com

例会：毎月第一水曜日 みどりーむ

*「まちネット緑」の活動記事は「防災塾・だるま」のホームページに載せてあります。